

## 【前回審議会における意見・質問事項について】

### ○資料②:アンケート案に関すること

#### ■質問事項①

- ・性別の「その他」の表現を「回答しない」とした方が良いのではないか。  
⇒ジェンダーの視点に限らず、男女の枠で無理に回答する必要性はないことから、「回答しない」とします。

#### ■質問事項②

- ・問 1)子どもの数が減少している原因についての選択肢に、「世帯年収が少ない」項目を追加してもいいのではないか。  
⇒世帯の収入と子どもの出産にかかる金銭面の負担は密接な関係であることから、アンケートに組み込むこととします。

#### ■質問事項③

- ・問 10)男女の地位の平等感において、選択肢の「“優勢“」が分かりづらい。  
⇒国の男女共同参画に関する世論調査アンケートの同設問にて“優遇“と表記していることから、表現を合わせることとします。

#### ■質問事項④

- ・問 11)①「DVの相談を受けたことはあるか」、との問いについて、相談先としてどこを想定しているのか。また、「相談を受ける」というのは、相談される側に使われる言葉のため、「相談をしたり、相談を受けたことがありますか」のような表現が良いと感じた。
- ・問 11)②「DV」は、被害者側のことだけを刺す言葉か。「DVの経験」は被害者を想定しているのか、加害者も想定しているのか、分かりにくい表現と感じた。  
⇒DVは配偶者やパートナーなど親密な関係にあたる男女間の暴力のことで、被害者と加害者双方のことを意味します。こちらの意図が伝わりづらい選択肢であったため、設問を2つに分け、DVの経験(した、された)の有無、相談の有無と相談先をそれぞれ追加します。

### ○資料③:アンケートの調査方法に関すること

#### ■質問事項⑤

- ・アンケートの送付方法は、「オンライン」も活用してほしい。  
⇒資料3で後ほど説明します。

#### ■質問事項⑥

- ・アンケートを回答した方に「えにぼ」を付与することはできないか。  
⇒付与することは可能。詳細は資料3で後ほど説明します。

■質問事項⑦

・前回アンケート(H26.12 実施)時の年齢構成を教えてください。

⇒回収数855件のうち、男性が366名(42.8%)、女性が484名(56.6%)、無回答が5名(0.6%)でした。

年代別では、10代 25名(2.9%)、20代 60名(7.0%)、30代 115名(13.5%)、40代 128名(15.0%)、50代 152名(17.8%)、60代 226名(26.4%)、70代 142名(16.6%)、80代以上 5名(0.6%)、(無回答2名:0.2%)と、60代が一番多く、50～70代が全体の60%を占めていました。

※前回アンケート送付時において、年代別の人数は定めていません。

○その他:計画の基本目標(重点課題)に関すること

■質問事項⑧

・性的マイノリティの方々への配慮が伺えたが、「男女共同」の表現で良いのか。

⇒国の男女共同参画基本計画(参考資料①p79-80、p87)では、性的指向・性自認(性同一性)[いわゆる性的マイノリティ]や障がい者等に対し、社会全体が多様性を尊重する環境づくりを進め、男女共同参画の視点に立って必要な取組を進めるとしています。

男女共同参画社会においては、性的マイノリティの方々も含めた多様性を尊重する社会を形成していく考えであることから、現在の男女共同の表現はこのまま活かしつつ、性的マイノリティや多様性の言葉を追記する考えであります。